

点線枠内は、親会構成員による発言

- 字幕付きCM普及のための技術上の課題（支障なく放送できるか、設備未対応）にどのように対応するか。

- 技術面・運用面での課題については、オープンに議論していくことが大事である。
- 広告主が出稿しなければ、トライアルは実施できない。
- CM字幕における問題や解決策を「見える化」する作業が必要。
- CM字幕については課題が多いが、先が見えるように具体的な議論をしないと進展しない。

- 字幕付きCM普及のための運用上の課題（各放送局の実施体制、費用負担の在り方等）にどのように対応するか。

- 字幕制作の体制が調べば費用については、低廉化していくのではないか。
- どこでどのようなコスト負担をして社会的に受容されていくのか議論が必要。
- 費用負担の透明性が必要。
- 技術面・運用面での課題については、オープンに議論していくことが大事である。【再掲】
- CM字幕における問題や解決策を「見える化」する作業が必要。【再掲】
- CM字幕については課題が多いが、先が見えるように具体的な議論をしないと進展しない。【再掲】

○ 広告主や国民に字幕付きCMの存在やメリット等を知ってもらうためにはどのような方策が考えられるか。

- 字幕付きCMは、世間の認知が低く、認知の向上が企業の社会的価値の向上にもつながっていく。
- BSやCS放送は、健康食品や白髪染めといった高齢者向けの長いCM番組が多く、こういった番組に字幕を付与すればCMとしての効果も上がるのではないか。
- 難聴者2000万人の方に広告が届いていないという事態に対し、広告の価値を向上させるためにもCMへの字幕の付与は重要な課題。
- 障害者や弱者の存在を当たり前とする感覚が必要。CM字幕が普及しないのも障害者に対する社会のイメージネーション不足が一因。
- 広告主としてCMをより深く理解していただくことは、広告主共通の願い。
- ワークショップ等を通じた広告主への普及啓発活動を実施。
- 複数提供社での実施に向けてトライアルを前進させるべき。
- 1社提供のCMにしか字幕を付与できない枠組みを早期に複数社提供に拡張すべき。
- CM字幕のトライアルについては、複数社提供枠でも実施する方向でWGで検討してほしい。

○ 字幕付きCMの本格的実施・普及に向けて、今後どのような取組が必要か。

- 民放・広告会社・スポンサーの三者の協力体制の強化が必要であり、WGで議論を深めるべき。
- 三団体がしっかりと連携・協力してCM字幕の普及に努めていくことが必要。
- 関係業界の現状についてどこがボトルネックかわかりにくい。課題克服に向けた三者の連携の場が必要。
- CMだからこそ、広告主・広告会社・放送局が協力すべき。
- 字幕付きCMを制作できる会社は数社程度しかない。すべての会社に関われる仕組みが必要。
- 制作体制の推進が必要。
- 視聴者に見ていただく画面デザインの標準化ということも今後の課題になるのではないか。
- CM字幕における問題や解決策を「見える化」する作業が必要。【再掲】
- CM字幕については課題が多いが、先が見えるように具体的な議論をしないと進展しない。【再掲】
- スケジュールとロードマップの明示が必要。
- 1社提供のCMにしか字幕を付与できない枠組みを早期に複数社提供に拡張すべき。【再掲】
- CM字幕のトライアルについては、複数社提供枠でも実施する方向でWGで検討してほしい。【再掲】